

熱い思いに溢れたエネルギーあるお話をありがとうございました。

病院で胃瘻にされてしまった人たちが、口腔ケアにより、口から食べる力と笑顔を取り戻していく様子に、感動するとともに、そういう人たちがなぜ病院で胃瘻にされてしまうのか？納得のいかない思いになりました。

私の祖母もそうですが、特に高齢の方々はお医者さんの言うことは何の疑いもなく信じ、言う通りにするのが当たり前という方が多いと思います。病院で医者言う通りにしたら、不幸になってしまうというのは、とても悔しいです。自分の周囲の人が口から食べられないかもしれない状況になったら、五島先生のことを思い出そうと思います。

ただ、そういう私自身も、福祉現場で働く者として口腔ケアについて、全く知らなかったことに気づかされました。「食べていないから大丈夫」「入れ歯をすれば食べられるようになる」「食べ物を詰まらせて誤嚥性肺炎になる」という誤解を私もしていました。

私は主に精神障害のある方々を対象とした事業所で働いていますが、関わっている方々を思い浮かべると、口の中、歯が汚れている方がとても多いです。歯磨きをする習慣がなくプラークが大量に付着している方、虫歯になっていても、歯が抜けていても歯科に行きたくないという方・・・そういった方々のことを気かけつつも、「気持ちが落ち込んでいる」といった精神面の相談ほどには重要視してきませんでした。

でも、今回のお話を聞いて、食べるということ、口腔ケアが精神面や QOL に深く影響するということがわかり、彼らに対してできる働きかけをもっと真剣に考えていきたいと思えます。若い方々は今は特に食べることに問題はなくても、口腔ケアをする習慣がないまま、年月が経つと、歳をとったときに大きな問題として浮上してくると思います。押しつけや強制はできないというのが難しいところですが・・・

先生に「隣の人に口の中を見せてください」と言われたときに、私も「無理」と思いました。虫歯になっているのに、歯が抜けて困っているだろうに、なぜ歯科に行かないのか、これまで今ひとつ理解できていませんでしたが、人との関わりに苦労している人も多い精神障害のある方にとっては、私が思っていた以上に歯科に行くというのはしんどいことなのかもしれないです。その辺りも考えつつ、歯磨きを習慣にしてもらったり、虫歯になっている人に歯科に行ってもらうにはどういったアプローチをしたらいいのか、他のスタッフにも今回の講義について伝えて、アドバイスをもらいながら、考えていきたいと思えます。

ありがとうございました。